

令和6年度豆類振興事業（試験研究助成費）の成果概要

- ③ 課 題： リモートセンシング型の収量評価および実需者型の加工適性評価を活用した金時系統の選抜強化（5～7年度）
代表者： 北海道立総合研究機構 農業研究本部 十勝農業試験場 研究部 豆類畑作グループ 研究主任 佐藤博一

目 的

多収で煮豆加工適性に優れた金時新品種の開発を促進するため、リモートセンシングを活用した多収系統選抜法を開発するとともに、育種における中後期世代について煮豆加工適性に優れた系統を選抜する。

成 果

①リモートセンシングを用いた多収選抜法の検討

- ・小規模生産力検定予備試験区において、7月中旬および下旬の正規化植生指数（NDVI）は、子実重との相関係数が高かった。
- ・NDVIが低い系統を圃場で廃棄すると選抜を効率化できると考えられた。

②レトルトパウチおよびカップによる加工特性評価

- ・カップはパウチに比べて、煮豆が柔らかく、皮破れが多かった。
- ・「食感の好み」に対して、「全体の硬さ」および「皮の硬さ」に有意な相関は認められなかったことから、適度な食感が好まれると考えられた。

③中後期世代系統における煮熟特性の選抜

- ・極少量で煮熟適性を評価し、皮切れおよび煮崩れが同程度または少ない系統を選抜した。

④中後期世代系統における煮熟特性の選抜

- ・少量で製品を試作して煮豆加工特性を評価した。

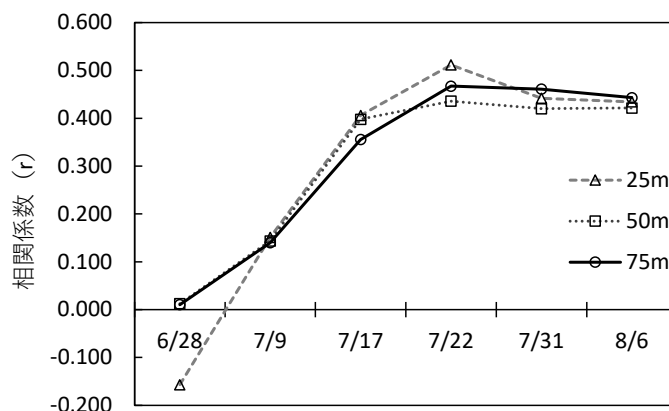


図 時期および撮影高度別の正規化植生指数（NDVI）と子実重との相関係数